

麻上俊夫 あさしげお 小説家。明治二十九年生れ（一九〇六）。本名俊延。

織譯、映画評論、小説會等。

譯著書、ツリス・ホバヤト作『揚子江』（譯、昭和十二年四月十一日）

（ニ宮書房）、イワン・ソロネヴァイ著『繋かれたロシア』（譯、昭

和十四年四月十日）（ニ宮書房）、ツリス・ホバヤト作『支那ランプの石

油』（譯、昭和十五年五月二十日）（ニ宮書房）、可城鱈（ガバチエツポ）

（昭和十七年七月十日）（アルス）等。



**繋かれたロシアの感動**  
著者 有馬 頼孝  
編輯 林文雄  
ソロネヴァイの『繋かれたロシア』の出版に際して、著者は、単なる脱出記である以上、本書が著者の冷靜な目によつてスターリニズムの醜態とソ連内部の政治的混乱を暴露すると言へない、一種の感動である。著者は、この脱出が單なるソ連の政治的壓迫への反動ではなくして、ロシア自體の一般的情況そのものが、其時脱出以上の文學作品たるらしめてゐるのであらう。また著者は、自分を幾度も國外に走らしたものは、歴史そのものをひらき出して、歴史への理解を強はれることと感へてゐる。これはひとりの私心私欲でない。